

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200337		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう北沢 A棟		
所在地	〒028-3323 岩手県紫波郡紫波町北沢字北沢2-1		
自己評価作成日	令和2年11月19日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○訪問診療・訪問看護・訪問歯科と連携を密にし体調の維持に努めている。 ○敷地内の畑にて野菜の自然栽培を行っており、収穫や調理を楽しむことができる。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>紫波町の東部地域に立地する事業所は、地域や近隣の小中学校等との繋がりと関係性を大切に、良好な協力関係が築かれている。コロナ禍のため従来の交流活動が難しくなっている中であっても、新たな手法等について模索しながら関係性が途切れないよう努めている。今年12月からは従前の理念を一新し、職員が理解しやすい内容のものとしており、日常的なケアにおいて新たな理念を活かせることが期待される。また、訪問診療をかりつけ医としている利用者が多くなってきており、看取りにおいても協力医の支援を得られる等、医療との連携体制が整っている。職員は、利用者の日常的な生活動作の質が落ちないよう、よく見て、考え、ケアにあたっている。「利用者の笑顔のために、自分達(職員)も笑顔でいることを心掛けて向き合っている。」という職員の言葉が印象深い。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が一人ひとりの行動指針に活かせていない。個人の力量に頼ってしまっているところが多い。	従来の理念が、職員にとってなかなか定着しにくい状況であったため、令和2年12月から「目の前の人を元気にする」というシンプルで分かりやすいものに一新した。ホールに掲示し、職員に浸透を図りながら、職員の行動指針を作成する予定としている。	新たに作成した理念の浸透を図ると共に、具体的な行動指針は、なるべく職員と共に作成し実践に活かされていくよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、交流の機会が減少した1年であった。	町内会に加入はしていないが、回覧板などは回ってきており、地域の情報は良く把握している。地域の草刈り等の行事には職員が参加し、事業所周辺の草刈りは地域の方々の協力を得られている。コロナ禍の今年はともかく、普段であれば小中学校との交流活動も活発に行われている。地域の研修会に職員が講師として出かけることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師、中学校にて福祉に対する講話を行うなど地域に向けて頻度は少なかったが発信できた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居状況・活動報告・事故報告を行っているが評価への取り組み状況についての報告は為されていなかった。今後報告してゆきたい。	コロナ禍のため、今年は3月、5月の会議は中止とし、7月以降は感染症対策を行いながら開催している。町担当課職員や民生委員、町内会役員、利用者家族を委員とし、ヒヤリハット報告等に関して活発な話し合いが行われている。避難訓練等との併催も予定されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情は運営推進会議を通して町担当者へ伝えている。役場へ出向くことも多数あり協力関係は築けていると考えている。	運営推進会議には、町の担当職員が毎回参加しているほか、介護認定等の業務を通じて日常的に連携を図っている。また、地域包括支援センターから認知症サポーター講座の講師派遣の要請を受け、対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の折にスタッフの対応が拘束に当たるか話しあっている。居室のセンサーは可能な限り設置をしないように対応している。	身体拘束廃止の指針を作成し、職員全員が身体拘束委員となっている。職員会議後に2か月毎に委員会や研修会を開催している。職員は、年1回「自己点検リスト」により個々のケアの振り返りを行うとともに、身体拘束等に関わる項目の再点検を行なっている。全体で6人が家族の了解を得てベッドセンサーを使用している。スピーチロックについても研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職場内にて虐待・拘束の研修を行い学ぶ機会を設けている。痣を発見した際は原因を考え共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解しているが全体に周知するまでには至っていない。必要性のある利用者は現在のところないが今後でてくる可能性も有り学ぶ機会は必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容や考え方も加えて解りやすい説明をこころがけ納得いただいた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回町の介護相談員が訪問し入居者から意見・苦情・要望を聞く機会を設けている。家族面会時には話しやすい環境作りを心掛け訪問意見アンケートをご記入いただき意見や苦情を引きだす努力をしている。	町の介護相談員が毎月来所して利用者から話を伺っている。また、家族には毎月「支援状況と連絡事項」をお送りし、意見等を書き込んで返送していただいている。コロナ禍による面会制限を緩和してほしいとの家族の要望もあり、一部面会を再開し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議にて意見交換を行っている。今年度は脱衣場に暖房を設置した。	毎月の職員会議で職員から意見が出され、この意見をもとに今年度は、浴室の脱衣所に暖房器具を設置したり、電源を増設してリフト浴利用者の入浴改善を図っている。管理者との個人面談は年2回実施している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働は適正に行えており、有休休暇取得率もアップした。職員がやりがい、向上心を持ってはたらせるように管理者はマネジメント力をアップさせたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を活用する機会は減少している。現在はZOOM研修も充実してきており次年度には実施してゆきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は殆どなくサービスの質を違った視点で考える機会は少なかった。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者へは、心を開いていただくことから始まり、後々不安なこと要望等について伺い、安心感の向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時・契約時には要望を伺いながら良好な関係作りができるように努めているほか、毎月の連絡書面を通して意見交換している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から状況を伺いながら他のサービスの利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に意向を伺いながら接している。入居者から支えて頂く場面も少しずつ増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の情報を伝え、情報交換・意見交換を行っている。関係性については、家族・本人の関係性を見極め、無理のない関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出向くこと、面会制限により家族にあうことに制限のある1年であった。同じ状況は続くことが想定されるが、関係性がとぎれないように努めてゆきたい。	コロナ禍のため家族や知人等の面会を制限せざるを得ない厳しい状況にあるが、少しずつ再開している。馴染みの蕎麦屋等への外出もできていないが、車から降りないでドライブすることで気分転換を図っている。訪問理容は2ヵ月毎に来所し、新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者との関わりに必要なと感じている入居者は少なく職員との関わりが主であるが、時折入居者同士で気遣いの場面を見ることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると関係性が閉じてしまうことが殆どであるが、現在の状況をお知らせいただいた例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉から想いを察したり、うまく言葉にできない想いを生活歴やその時の行動や表情から汲みとるように努め検討している。	全体の4割の方は思いや意向を言葉で表すことが出来、その他の方々については表情や仕草から気持ちを把握するように努めている。食えることや食べ物への関心が高くなっている。思いの把握には「私の生活シート」「私の気持ちシート」等を更新しながら活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族からお話を伺い、入居後も折に触れ本人・家族・友人・ケアマネジャーから情報を集めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の会議にて入居者一人ひとりに必要なケアを話し合い実践している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常生活での言動や意向を大切にしながら、家族や本人の希望を伺い介護計画を作成している。	ケアプランは計画作成担当者が案を作成し、カンファレンスを経て決定しており、見直しは居室担当者等の情報も得て3、4か月毎に行っている。今後は、居室担当者が利用者のよりよい暮らしの実現に向け、計画作成にも関わるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしや本人の言葉・エピソード等の記録とケアプランの実施状況を記録し申し送り確認しながら情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化時はその都度必要な支援を見直しとくんでいる。(拘縮がある方への訪問マッサージ、フットケア等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出自粛の期間長かった事を理由に地域資源の十分な活用には至ってない。制限がある中でも豊かに生活する為の工夫を怠らないように支援する必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からは適切な医療を常に受けている。かかりつけ医との関係も十分に築けている。	多くの利用者が盛岡市内から訪問診療で来所してくれる医師をかかりつけ医としているほか、町内の医療機関に通院する方もおり、通院には職員が付添うことが多くなっている。歯科診療も訪問歯科を利用している。看護業務は訪問看護ステーションを活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションから週1度の定期訪問を受けており相談助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院は殆どないが、入院時には利用者の支援に関する状況を医療機関に伝えている。また、退院直前から情報交換を行い退院後に利用者が安心して暮らせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される方は早めに家族へ意向確認し、段階が進むにあたり更に話あいを重ねている。	入居時には重度化した場合の対応について説明を行っており、その場合には特別養護老人ホーム等に入所する例も多い。また、看取りは今年はないが、かかりつけ医の協力を得て過去にも経験しており、対応できる体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の心肺蘇生訓練は必ず行うこととしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練を行った。回数を重ね活発な意見交換ができるようになった。	ハザードマップでは浸水や土砂災害危険地域とされていないが、大雨等で避難指示が出た場合の実際の避難先確保を課題としている。また、夜間想定避難訓練は2回実施しており、車いす利用者が全体で6人いるものの、1階からの避難のため、何とか対応できている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の言葉掛けには意識をしているものの支援者側の問題で配慮が足りない場合もある。不適切な対応がみられた場合その場で注意することが必要であるが実施できないことが多い。	職員は、声掛けの際に人格の尊重とプライバシーの確保を特に留意してケアに当たっている。入浴や排泄介助等の際には、周りから見えないよう、他の利用者から気づかれないよう、小声で声掛けしたり、誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	思うように意思の表示が出来なかったり、言葉が通じないこともあるが、その方の想いをイメージしながら適切な支援を行うように努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになっていることが多くみうけられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみは、入居者の希望にあわせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	頻度は少ないが一緒に調理を行うこともある。片付けは一緒に行うことが多い。	献立は職員が、利用者から食べたいものの希望を伺いながら作成している。調理は職員が交替で行い、利用者は下拵えや食器拭きなどを手伝っている。食材は地域の商店から新鮮で旬のものを届けてもらっている。ベテランの利用者も参加して、畑作業も行っており、食材としても活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物を揃え好みを伺い提供している。十分な量に不足していても意思を尊重する場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声をかせさせていただき個人の能力に応じ見守りや介助を行い必要時には口腔内を確認し訪問歯科医師診療に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易なオムツ着用は行わずトイレ誘導を行っている。	布パンツで自立の方が6人で、他は多くがリハビリパンツ使用となっている。入居時に紙オムツやパットを使用していた方でも、適切なトイレ誘導によって状態が改善した方もいる。個々の排泄パターンを把握して誘導支援し、状態が悪化しないよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食品を献立にいれることや、オリゴ糖入りのヨーグルトを毎朝提供している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴時間を決めているが、希望が聞かれた際には柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としながら、個々のタイミングを大切に支援している。A棟はリフト浴が多く、B棟では普通浴の方が殆どである。入浴時は職員と1対1の対話を大切にしてケアにあたっている。季節ごとの菖蒲湯やゆず湯も提供して楽しませている。同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ声をかけさせていただいている。休む際には、室温・明るさに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は職員皆確認し、副作用がないか常に様子を見ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりに合った支援はなかなかできていない。生活歴や力を活かした役割ができるように提案したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が少ない年であった。ご自分から意思表示をされる方が少ない為、職員からさり気なく提案してゆきたい。	コロナ禍で大きな影響を受けており、従来のような外出支援ができずに苦労している。それでも、B棟を中心に、希望者を大きめのワゴン車に乗せて、近隣を回るドライブを行っている。また、通院時にまわり道して自宅前を通ったり息子さんの家の前を通ったりして思い出話をしている。事業所近くの神社に散歩に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の入居者がお金を所持しており、一緒に出掛け、買い物をする機会を持つことができた。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは自由に出るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日光の明るさに配慮している。また、テレビの音量等の刺激に配慮している。壁に装飾を施し季節を感じられるように努めている。	A棟、B棟と棟続きで、中央にキッチンを設置しており、双方のユニットを見通せる。ホールには、季節を感じられるクリスマス飾りや利用者の作品等が飾られている。大きい日めくりカレンダーは、利用者に「今」を知らせるツールとなっている。窓も大きく外からの採光もよく、畑などが見え、ゆったりと落ち着いたホールになっている。空調はエアコンと床暖房とで管理され、利用者は会話やテレビ鑑賞などを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名の利用者に自室以外の居場所があり、思いおみに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態にもよるが、出来るだけ使いなれた馴染みのものをお持ちいただくよう提案し居心地よく過ごせるように努めている。	居室にはベッドとエアコンが備付けられ、床暖房になっている。利用者は、馴染みの筆筒や衣装ケース、鏡台や位牌等を持ち込んでいる。各居室の入口には、利用者毎の目印ともなる表札が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ等わかりやすく張り紙をしている。また、安全に歩行できるように家具の配置に留意している。		